

目的 栄養摂取量調査の場合 秤量式調査方法は 被調査者に計量，記入の能力が要求されるため思い出し法により一定期間内の食事内容を概量により記入する回答式の方が簡便であり，しかも被調査者自身が食事内容の反省と 食品の量的なものについての関心を深めることができる。今回は，秤量方法と回答形式による調査方法を同時に行ない，食品摂取量と栄養量の両調査間の違いについて検討を加え，回答形式の簡易性に，量的正確さを加えることができればと思い本研究を行なった。

方法 調査時期は昭和55年11月中旬，対象19才～20才女子学生61名 回答形式による食物摂取調査は，厚生省健康指標策定委員会作成のアンケート式を用いた。秤量式は同時期の3日間の1人/日当りの食品摂取量を記録したものをを用いた。

結果 エネルギー，脂肪，糖質については両調査間の違いは認められなかつたが，蛋白質については $55 \pm 11$ g(アンケート)  $59 \pm 15$ g(秤量)と有意の誤差が出た。そのうち魚・肉・大豆製品の摂取量を見るに，1点80kcalに相当する量が3食により平均値が異なり，朝， $57 \pm 36$ g，昼 $70 \pm 37$ g，夕 $73 \pm 37$ gとなり，3食のイメージによりかなりの差が見られた。卵類については数量把握が容易なため3食の差に有意性はみとめられなかつた。乳・乳製品については，主として朝食に摂取するものが多く，次に間食として摂取しているが，乳類については朝食の場合の方を多く感じており，それぞれ食品により習慣性からくる量的受け止め方が異なっている。なお他食品についても検討を加えて行きたい。